

平成18年3月1日

報道関係者各位

**統合国際深海掘削計画（IODP）におけるタヒチ島サンゴ礁
掘削研究に関する記者説明会について**

大学院理学研究科

別紙のとおり、3月2日にドイツ・ブレーメンにおいて、昨年10～11月にタヒチ沖で行われたIODPの研究航海で採取されたコアの研究結果についての記者会見を開催するとの案内が届きましたのでご紹介させていただきます。

昨年10月6日から11月16日の間、統合国際深海掘削計画（IODP）において、欧州の提供する掘削船が南太平洋タヒチ沖で掘削航海を実施しました。我が国からも4名の研究者が参加した本航海では、タヒチ沖において、37孔で掘削を行い、のべ630mのコア（柱状の地質資料）を採取しました。採取されたコアについては、2月13日から約1ヶ月間の予定でドイツ・ブレーメン大学において、基礎的データの収集・整理が行われています。このたび、別紙のとおり、ブレーメンにおいて記者会見を開催するとの案内が届きましたのでご紹介させていただきます。

この陸上研究には、我が国から8名の研究者が参加し、それぞれの研究分野に応じたコアを持ち帰り、さらに詳細な研究を実施することとなります。これにより、最終氷期以降の過去2万年間の海水準の変動を含む海洋環境の復元が期待されます。

IODPは、海洋科学掘削船を用いて深海底を掘削することにより、地球環境変動の解明、地震発生メカニズムの解明、地殻内生命の探求等を目的として研究を行う国際研究協力プロジェクトであり、2003年10月1日より我が国と米国によって開始されました。その後、欧州12カ国で構成される欧州海洋研究掘削コンソーシアム（ECORD）、中国が参加し、国際的な推進体制が構築されています。IODPでは、我が国が提供する地球深部探査船「ちきゅう」のほか、米国が提供する科学掘削船、欧州が提供する特定任務掘削船（MSP）の複数の掘削船を用い、科学目標を達成するため戦略的かつ効果的に研究を行うこととしています。

我が国から参加する研究者：

- 井龍 康文 (東北大学大学院理学研究科地学専攻地圏進化学講座 助教授)
本航海の共同首席研究者
- 杉原 薫 (福岡大学理学部地球圏科学科地学分野 助手)
- 松田 博貴 (熊本大学理学部理学科地球変遷学講座 助教授)
- 山田 努 (東北大学大学院理学研究科地学専攻地圏進化学講座 助手)
- 浅海 竜司 (東北大学大学院理学研究科地学専攻地圏進化学講座 COE
ポスドク研究員)
- 藤田 和彦 (琉球大学理学部物質地球科学科 助手)
- 町山 栄章 (海洋研究開発機構高知コア研究所 研究員)
- 横山 祐典 (東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻 専任講師)

(お問い合わせ)

文部科学省研究開発局海洋地球課

課 長 佐藤 洋

深海地球探査企画官 田中 康久

TEL: 03-6734-4146 (直通)

FAX: 03-6734-4147



INVITATION Media Conference

Scientists explore mysteries of global sea-level rise

Since February 13th 26 scientists from ten nations work in the Bremen Core Repository of the Integrated Ocean Drilling Program (IODP). The researchers analyze 632 metres of cores, each six centimetres wide, which contain fossil corals. The cores were drilled last October and November off Tahiti during a very extensive geoscientific research expedition (IODP Expedition 310 Tahiti Sea Level). It was the second international mission proposed and operated by the European Consortium for Ocean Research Drilling (ECORD) under the auspices of IODP. .

By examining the corals the IODP research team will learn, with unprecedented accuracy, more about the timing and course of global sea level changes since the climax of the last ice age 20.000 years ago. This may help to understand present and future sea level rise related to global warming. The scientists also expect the corals to provide information on sea surface temperature changes, especially for climatic anomalies such as El Niño/Southern Oscillation events during that period.

The co-chief scientists of the expedition from France (Gilbert Camoin, CEREGE) and Japan (Yasufumi Iryu, Tohoku University) shall present the results of their exciting investigations during an international media conference. We heartily invite you to take part. You are also welcome to visit the core repository and labs to get an impression of how advanced climate research is conducted:

Media conference

Thursday, March 2nd 2006, 11 am

University of Bremen

MARUM-Building

Leobener Straße

We kindly ask you to **register** by sending an email or phone to: **Albert Gerdes**

DFG Research Center Ocean Margins

University of Bremen

- Public Relations -

Email: agerdes@marum.de

Phone: +49 – 421 – 218-65540

Further information: www.ecord.org/exp/tahiti/310.html

記者会見への招待

「科学者達が全世界的な海水準上昇の謎を解き明かす」

2月13日より、10カ国の科学者がIODPのブレイメンコア保管庫に集結し研究を行っています。科学者達は、珊瑚類の化石が含まれるコアと呼ばれる幅6cm、長さ632m分もの地質試料の分析を行います。これらのコアは、大規模な地球科学の研究航海(IODP航海310 Tahiti Sea level)として、昨年10、11月にタヒチ沖で掘削、採取されたものです。これは、IODPとして、欧州海洋研究掘削コンソーシアム(ECORD)が提案、運用を行った2番目の研究航海になります。

IODP研究チームは、サンゴ礁化石を分析することによって、2万年前に最も寒冷化した最終氷期以降の全世界的な海水準上昇の時期や遷移について、今までになく高い精度で解明していくことでしょう。これによって、地球温暖化によってもたらされる現在及び将来的な海水準上昇を理解されることが期待されます。また、科学者達はサンゴ礁化石の分析から海表面温度の変化について、特にこの期間におけるエルニーニョ南方振動()のような異常気象についての情報を得ることができると期待しています。

今回の記者会見では、本航海の首席研究者であるジルベール・カモワン博士(CNRS-INSU CEREGE)と井龍康文助教授(東北大学)が、これまでの研究結果について発表します。皆様のご参加をお待ちしています。また、最先端の気候学研究の様子を知っていただくため、コア保管庫や研究室の見学も行います。

()エルニーニョ南方振動:

エルニーニョとは、エクアドルからペルー北部の沿岸で冬期に海面水温が上昇する現象。一方、南方振動とは、南太平洋低緯度帯の気圧配置の変動のことで、この二つが相互に連動している現象であることから、エルニーニョ南方振動と総称している。

記者会見

2006年3月2日(木)午前11時

University of Bremen

MARUM-Building

Leobener Straße

参加される場合は以下までメールもしくは電話により登録をお願いいたします。

Albert Gerdes

DFG Research Center Ocean Margins

University of Bremen

Email: agerdes@marum.de

Phone: +49 421 218-65540

詳細は以下ホームページもご参照ください。

www.ecord.org/exp/tahiti/310.html

統合国際深海掘削計画 (Integrated Ocean Drilling Program: IODP)

概要

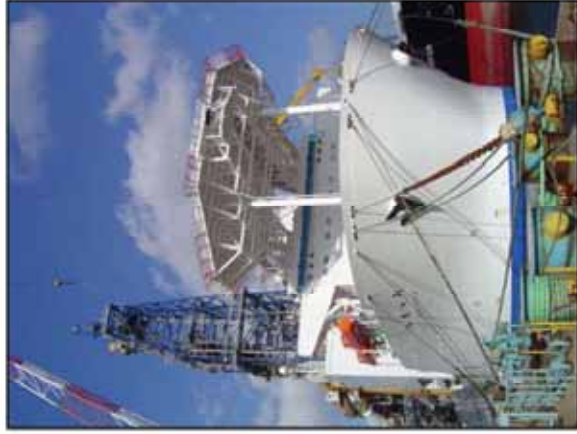
日米を中心に欧、中が参加し、平成15年10月から始動した多国間国際協力プロジェクト。我が国が建造する地球深部探査船「ちきゅう」と、米国が建造する掘削船を主力掘削船とし、欧州が提供する特定任務掘削船を加えた複数の掘削船を用いて深海底を掘削することにより、地球環境変動、地球内部構造、地殻内生命圏等の解明を目的とした研究を行う。

現状

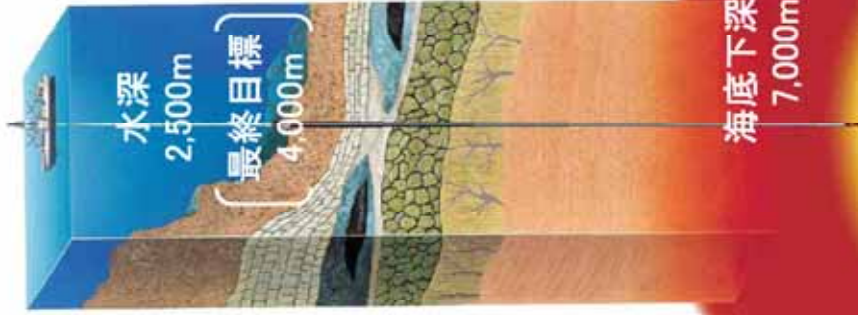
平成15年4月22日に文部科学大臣と米国立科学財団(NSF)長官が覚書に署名し、IODPの基本的な枠組みを構築。平成15年10月から開始された本計画には、平成16年3月16日に欧州12カ国で構成される欧州海洋研究掘削コンソーシアム(ECORD)が参加。その後、平成16年4月26日には、中国が参加し、現在の参加国は15カ国となっている。

地球深部探査船「ちきゅう」は、平成14年1月に命名・進水式。平成15年9月に掘削用やぐらを搭載。平成17年7月に完成し海洋研究開発機構に引き渡され、現在は試験運用を実施しているところ。

スケジュール



地球深部探査船「ちきゅう」
(H17年7月完成)



地球環境変動解明

過去の地球環境変遷の解明 等



地球内部構造解明

プレートとの運動機構の解明 等



地殻内生命探求

超高温・超高温環境下活動微生物の探求 等



参考